

***** 老人保健福祉施設職員を対象としたHIV/エイズに関するアンケート結果

資料 1 4

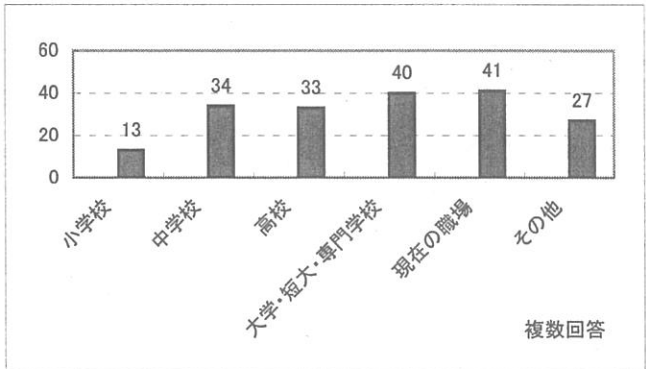
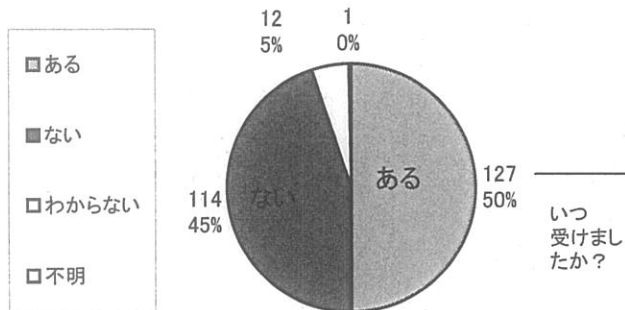
平成24年11月～12月、435人の方にアンケートを配布し、327人の方にご回答いただきました。

◎あなたの職種を教えてください

	人数	割合	
施設長・所長	49	19.3%	事務職グループ 81名
事務職員	32	12.6%	
ケアマネジャー	2	0.8%	福祉職グループ 21名
社会福祉士	19	7.5%	
指導員	101	39.8%	
介護福祉士	28	11.0%	ケア職グループ 152名
医師	0	0.0%	
看護師・保健師	23	9.1%	
合計	254	100%	

今回は職種「その他」、「未記入」の方以外の方の回答(254件)についてご報告します。

◎HIV/エイズに関する授業や研修を受けたことがありますか？



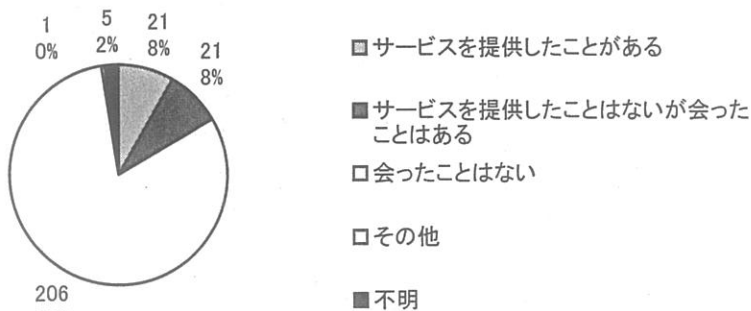
授業や研修の有無別に
患者・感染者の受け入れ意思
の割合をみると...

		利用受け入れ意思		計
		あり	なし	
教育・研修	あり	82	23	105
	なし	60	32	92
計		142	55	197
		78.1%	21.9%	100.0%
		65.2%	34.8%	100.0%
		72.1%	27.9%	100.0%

p<0.05

HIV/エイズに関する授業や研修を受けたことがある人は約半数でしたが、受けたことがない人も約半数いることが分かりました。なお、授業や研修を受けたことがある人は、そうでない人と比較してHIV感染者・エイズ患者の受け入れ意思があると回答した割合が高いことが分かりました。

◎HIV感染者やエイズ患者にサービスを提供したり、会ったりしたことがありますか？



あわせて16%の人がサービス提供または会った経験がありました。

る人と、ない人で患者・感染者の受け入れ意思の割合を比べてみると...

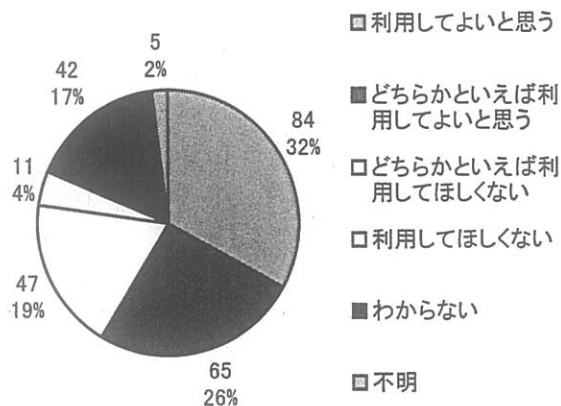
			利用受け入れ意思		計
			あり	なし	
サービス提供経験 や会ったこと	あり	度数	34	7	41
	なし	度数	113	51	164
計		度数	147	58	205
			82.9%	17.1%	100.0%
			68.9%	31.1%	100.0%
			71.7%	28.3%	100.0%

n.s.

サービス提供経験のある人の割合は全体の8%、会ったことがある人の割合は8%と、全体の約6人に1人がHIV感染者にサービスを提供したり、会ったりしたことが分かりました。また、サービス提供または会った経験によって、患者感染者の受け入れ意思の割合に差はありませんでした。

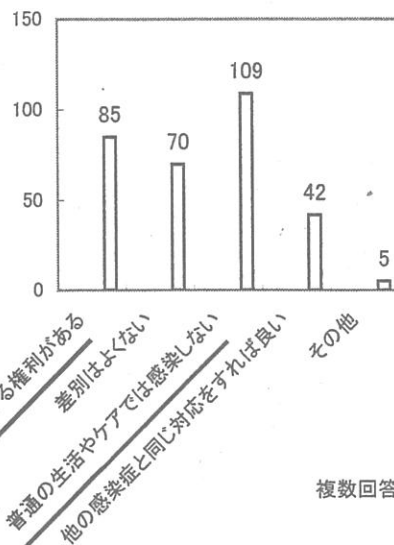
◎施設や事業所の利用を希望するHIV感染者・エイズ患者に対してあなたの持っている感情は？

持っている感情

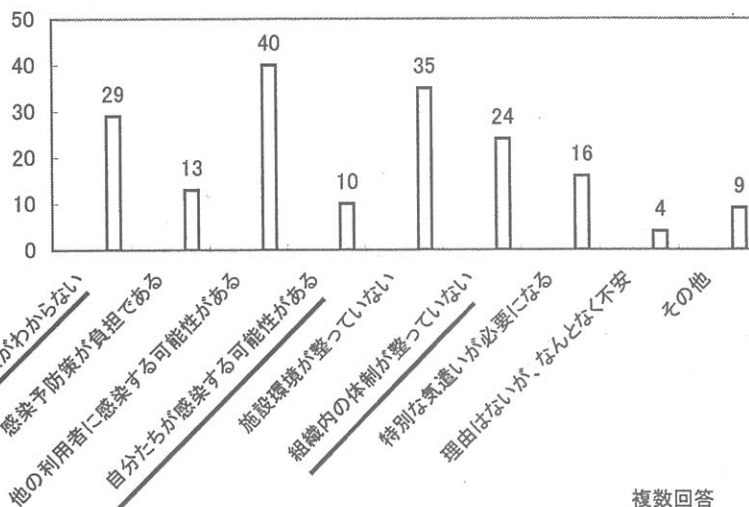


- ☐ 利用してよいと思う
- ☒ どちらかといえば利用してよいと思う
- ☐ どちらかといえば利用してほしくない
- ☐ 利用してほしくない
- ☐ わからない
- ☐ 不明

その理由は？



その理由は？



「利用してよいと思う」「どちらかという利用してよいと思う」と回答した人の割合は合わせて58%と、約6割の方が施設利用に肯定的な意見を持っていました。
また、事務職・福祉職・ケア職でHIV感染者・エイズ患者の受け入れ意思に差はありません

◎HIV感染者・エイズ患者が施設や事業所を利用することに対してどのような準備が必要だと思いますか？

職員が疾患について理解すること	236
職員が感染予防策を理解すること	225
利用者の健康に関する専門医療機関のバックアップ体制があること	188
利用希望者の悩みを知ること	160
利用者が受診している医療機関等から、ケース紹介を受けること	150
利用者の活用できる福祉制度を理解すること	122
継続的な行政との連携があること	109
職員に対する相談窓口があること	105
地域で支援ネットワークがあること	105

複数回答

約9割の方が、疾病の理解や感染症予防策を理解することが必要であると感じていました。また約7割の方が医療については専門医療機関との連携の必要性を感じていました。
またHIV/エイズについて学びたいことについては、約5割の方が研修を受講したい、パンフレットを見たい、とそれぞれ回答し、積極的に学びたいと考えていることが分かりました。

◎HIV/エイズについて学びたいこと

研修を受講したい	122
パンフレットを読みたい	116
ホームページを見たい	91
学ぶ必要性を感じない	6
興味がない	4
その他	5

複数回答